

事例と意見の関係に着目して読み、メディアコメンテーターになろう

中心学習材「想像力のスイッチを入れよう」（光村図書5年）

授業者：猪鼻 裕之

児童：5年

1 単元構想

（1）児童の実態

- ・筆者の主張・要旨について、文章全体の構成や工夫を捉えながら、明らかにすることができるようになってきている。
- ・具体的な事例（知識・経験）を挙げながら自分の考えをまとめることが十分に身に付いていない児童がいる。
- ・交流を通して自分の考えをさらに広げることが難しい児童がいる。

（2）国語科の目標と系統性

5年「見立てる／言葉の意味が分かること」
事例・理由、構成や論の展開に着目して、要旨を捉える。
5年「固有種が教えてくれること」
筆者の考えや論の進め方について、資料を用いた効果を考えながら読む。

<重点指導事項>

- [知] 文の中での語句の係り方や前後の文のつながり、構成や展開、論説文とその特徴について理解することができる。
知（1）文や文章 カ）
[思] 文章を読んでまとめた意見を共有し、自分の考えを広げることができる。
（C（1）共有 カ）
事実と感想、意見などの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる。
（C（1）構造と内容の把握 ア）
筆者の主張について理解したことに基づき、知識や経験から自分の考えをまとめることができる。
（C（1）考えの形成 オ）
[学] 筆者の主張を基に考えた意見を積極的に話し合っ共有し、自分の考えを広げながらメディアとの関わり方について話し合おうとすることができる。

6年「メディアと人間社会／大切な人と深くつながるために」
論の展開や表現の仕方に着目して複数の文章を読み、考えを交流する。

（3）教材の特性と主たる言語活動

① 教材の特性

この教材は、メディアからの情報を正しく受け取るための努力について述べられた説明的文章である。3つの事例を挙げながら、「想像力のスイッチを入れる」とは実際にどうすることなのか、分かりやすく4つの観点で示し、文末表現の工夫や比喻を用いながら論を進め、事例と考えや意見の繰り返しによって構成されているものである。そのため、事例と意見の関係を整理することで、主張とのつながりが読み取りやすい。また、情報化社会を生きる児童にとって自分の知識や経験と照らし合わせながら読むことができるため、自分の考えをもちやすい。さらに、「もっと読もう」では、マスメディアの特徴をもとに交流することで、メディアとの関わり方について自分の考えが広がる教材である。

② 主たる言語活動「自分の知識や経験からメディアとの関わり方をまとめ、考えを交流する活動」

- ・導入で自分とメディアの関わりについて、よさや問題点を聞いたり新聞記事を読んで考えたりしたことを出し合う。二次では、「想像力のスイッチを入れる」とどうか再度同じ新聞記事を読み直すことで、筆者の主張について根拠をもって考えることが期待される。
- ・「もっと読もう」で示している4つのメディアの特徴に触れ、受け手側としてのメディアとの関わり方について自分の知識や経験から考えをまとめる活動を設定する。三次では、タブレットで互いの考えを交流し、取り上げる事例や理由が違う友達の意見に触れ、考えを支える根拠として付け加えることで、自分の考えを広げることができる。

（4）本研究主題達成のための手立て

① よりよく獲得させたい国語科固有の資質・能力

文章を読んでまとめた互いの意見や感想を共有し、自分の考えを広げる力

② 学びを推進する力（汎用的な資質・能力）

<論理的に思考する力>

相手の主張について自分の知識・経験と関連付けながら考える力

<受容・共感する力>

事例や知識・経験などを根拠に考えを交流する中で他者の考えのよさを見付ける力

③ 具体的方策

（第5・6時）※本時

想像力のスイッチを入れる前と後でのメディアに対する情報の受け取り方や考え方の違いに気付くために、導入時に読んだ記事を読み直し、筆者の主張に対して経験したことを関連付けて考えと理由を書く活動を設ける。

（第7時）

考えを広げるために、メディアとの関わり方について自分とは異なる事例や理由、視点で捉えた友達の考えのよさを交流し、自分の考えを支える根拠として付け加えて、新たな考えをまとめる活動を位置付ける。

2 単元の学習計画

(1) 単元の評価規準

- [知] 文の中での語句の係り方や前後の文のつながり、構成や展開、意見文とその特徴について理解している。
(知 (1) 文や文章 カ)
- [思] ①「読むこと」において、文章を読んでまとめた意見を共有し、自分の考えを広げている。
(C (1) 共有 カ)
- ②「読むこと」において、事実と感想、意見などの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握している。
(C (1) 構造と内容の把握 ア)
- ③「読むこと」において、筆者の主張について理解したことに基づき、知識や経験から自分の考えをまとめている。
(C (1) 考えの形成 オ)
- [主] 筆者の主張を基に考えた意見を積極的に話し合っ共有し、自分の考えを広げながらメディアとの関わり方について話し合おうとしている。

(2) 指導と評価の計画 (7 時間)

次	時	○学習活動	指導上の留意点 〈発揮させる学びを推進する力〉	評価規準・評価方法等
一	1	○学習計画を立てる。 - 新聞を読み、感想を交流する。 (朝学習時) - メディアと関わることのよさや問題点について交流する。 ○教材文を読み、感想をまとめる。 - 全文を通読後、納得したことや疑問に思ったことなどの感想や考えをまとめる。 メディアとどう関わればよいか コメンテーターになって考えよう。	- 新聞記事について自由に感想を交流し、本単元の学習への関心を高める。 - 今までの自分とメディアとの関わりについて振り返ったり初発の感想を書いたりすることを通して、目指す姿を共有し、学習への課題意識につなげる。 〈メタ認知する力〉〈課題を設定する力〉 - コメンテーターとは、自らの考えや意見を述べる人のことを指すことを確認し、学習を通して自分の考えを明確にもてるようにする。 〈見通す力〉	
二	2・3	○文章の構成や論の進め方について 3つの事例とそれに対する筆者の意見を整理して読む。 - 事例と意見に着目して、全文を3つのまとまりに分けて構成を捉える。 3つの事例と筆者の意見を整理し、筆者の主張を読み取る。 筆者は、どんな文章構成で主張を伝えているのか。	- 事例と意見、感想との違いを押さえ「想像力のスイッチ」というキーワードを基に、文章を大きく3つに分ける。 - 今まで学習した説明文を想起し、同じ双括型の文章構成になっていることに気付くようにする。 - まとまりごとのおおまかな内容について見出しをつけて要点をおさえる。 - 各事例について筆者の意見をワークシートに整理することで、事例と意見の関係について考えるようにする。 〈論理的に思考する力〉	[思考・判断・表現②] ワークシート・発言 事実と感想、意見などの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握しているか確認する。
		事例①マラソン大会 →意見 事例② 図形の見方 →意見 主張⇒与えられた情報を全てだと思わず、スイッチを入れて想像する。 事例③サッカーチーム監督→意見 結論を急がない。冷静に見直す。伝えていないことについて想像力を働かせる・・・など。 主張⇒情報を受け取る側の努力として想像力のスイッチ4つを入れて、思い込みや推測によって誰かを苦しめることがないように自分でしっかりと判断すること。	何を大事と思うかによって発信する内容が変わる 切り取られた情報から全体を判断した思い込み スイッチを入れて想像する。 結論を急がない。冷静に見直す。伝えていないことについて想像力を働かせる・・・など。 想像力のスイッチ4つを入れて、思い込みや推測によって誰かを苦しめることがないように自分でしっかりと判断すること。	
	4	○事例と意見の関係を押さえ、筆者の意図や効果について考える。 - 前時のワークシートを基に、文章構成の意図や効果を考える。 - 想像力のスイッチを入れるとはどういうことなのか叙述を基に考える。 なぜ、複数の事例を挙げたり比喩表現を使ったりして説明しているのだろう。	- 複数の事例を挙げた理由を考え、事例と意見がセットで繰り返しの構成になっていることをつかみ、事例を挙げて説明するよさと筆者の主張との関係を考えるようにする。 - 事例なしで意見のみを述べているだけの文と比べることによってそのよさや効果に気付くようにする。 - 想像力のスイッチや最後の段落を比喩表現を用いて伝える意図とその効果について考えることができるようにする。 〈論理的に思考する力〉	[知識・理解] ワークシート・発言 文の中での語句の係り方や前後の文のつながり、構成や展開、意見文とその特徴について理解しているか確認する。

三	5 (本時) ・ 6	○筆者の主張を基に、新聞を読み、主張に対する自分の考えをもつ。 コメンテーターとして、筆者の主張についてどう考えるか。 ・導入時と同じ新聞記事を想像力のスイッチを入れて読み直し、グループで交流する。 ・筆者の主張について自分の考えをもつ。	・導入時に使用した新聞記事と同じものを用意する。想像力のスイッチを入れることで考えや感じ方がどう変わるのか気付けるようにする。それを基に、筆者の主張への納得や疑問などから自分の考えの根拠をもてるようにする。 ・交流することで、自分以外の友達の気付きのよさを受けて、考えをもてるようにする。 〈論理的に思考する力〉 ・次時で自分の考えをまとめることを見通す。	
		○「もっと読もう」を読み、メディアとの関わり方について自分の考えを書く。 ・本文を読んで理解を深めたことを基に、知識や経験を踏まえて考えを書く。 メディアとの上手な関わり方についてコメンテーターになって自分の考えを書こう。 ・学習を振り返り、4つのスイッチについて自分にとってどれが一番大切であると感じたか交流する。	・新聞以外のメディアについて触れ、自分の考えを文章にまとめる。観点として、 ①筆者の主張についての共感や疑問 ②知識や経験を根拠にした考え ③今後のメディアとの上手な関わり方とし、筆者の主張を基に、自分の知識や経験を踏まえてメディアとの関わり方についてタブレットに考えてまとめるようにする。 ・学習を振り返る中で、知識や経験によって自分自身の中でも考えが深まることを押さえた上で、次時の交流で考えが広がるよさに気付くようにする。 〈表現する力〉〈論理的に思考する力〉	[思考・判断・表現③] ワークシート・発言 筆者の主張を基に自分の知識や経験を見直し、メディアとの関わり方について自分の考えをまとめているか確認する。
	7	○互いの考えを交流し、自分の考えを広げる。 ・タブレット端末を使用し、友達と互いの考えを交流する。 メディアとどう関わればよいのか交流し、自分の考えを広げよう。 ・交流して気付いたことを基に、再度自分の考えをまとめる。 ・学習を通して、自分ができるようになったことを振り返る。	・タブレット端末を共有し、グループを中心に考えの似ているところ、違うところ、取り入れたい考えの3点を中心に、友達と交流する。 ・全体交流を通して、互いの考えのよさを知り、自分の考えの広がりを実感することができるようにする。 ・振り返り場面では、できるようになったことに加え、どうすれば自分の考えが広がるのかについても振り返ることができるようにする。 〈受容・共感する力〉〈メタ認知する力〉	[思考・判断・表現①] カード・ワークシート・発言 文章を読んでまとめた意見を共有し、自分の考えを広げているか確認する。 [主体的に学習に取り組む態度] カード・発言 筆者の主張を基に考えた意見を積極的に話し合っ共有し、自分の考えを広げながらメディアとの関わり方について話し合っているか確認する。

3 本時の指導（5／7時）

(1) ねらい

筆者の主張を基に自分の知識や経験を見直し、メディアとの関わり方について自分の考えをもつことができる。

(2) 展開

学習活動	指導の手立て 〈主に発揮させる「学びを推進する力」〉（※評価）
1 前時までの学習を想起する。 ・筆者の主張や工夫について理解したことを想起する。	・前時に文章を読んで理解した筆者の主張や論の進め方から様々な工夫がされていることを想起する。
2 学習課題を確認する。 コメンテーターとして、筆者の主張についてどう考えるか。	・本時は、筆者の主張について自分の考えをもつことを確認し、課題意識を共有する。
3 新聞記事を読み、感じたことや考えたことを交流する。	

・導入時と同じ新聞記事を、想像力のスイッチを入れて読み直す。 (1) 自分の考えをもつ。 ・4つのスイッチを入れて新聞記事を読む。 (2) 互いの考えを交流する。 ・グループで互いの考えを交流し、互いの考えの相違点や共通点を明らかにする。 4 学習のまとめをする。 ・新聞記事を読んだ経験を基に、筆者の主張について自分の考えを簡単に書き、全体で交流する。 (例) 「事実か印象か」の想像力のスイッチを入れることが大切だ。なぜなら、実際に自分で新聞を読んでみると、〇〇という文は書き手が勝手に思っていることで、事実ではない。だからこそ自分でしっかりと事実か印象か判断しなければ正しく情報を受け取ることができないと感じたからである。	・メディアとの関わり方について自分の考えの根拠となる具体的な経験ができるように、導入時に使用した記事と同じものを用意する。 ・ワークシートを使い、想像力のスイッチを入れることで受け手側の考えや感じ方が変わること気付くことができるようにする。 ・読み直した変化や気付きについて交流することで、自分以外の友達の気付きのよさを受けて、考えを書くことができるようにする。 ・学習前の新聞記事の読みと関連付けることで、筆者の主張に対する納得や疑問などに根拠をもたせ、メディアに対する自分の考えを形成する。 〈論理的に思考する力〉 ・知識や経験を基に書いた考えを全体で交流し、学びの自覚化を図る。 ※筆者の主張を基に自分の知識や経験を見直し、メディアとの関わり方について自分の考えをまとめている。 (ワークシート・発言)
5 学習を振り返る。	・筆者の主張と関連付けながらメディアとの関わり方について比較することで、知識や経験によって自分の考えが深まったり、広がったりすることに気付くことができるようにする。 ・次時では、マスメディアの特徴を詳しく知り、自分の考えをまとめることを伝える。

(3) 評価

評価規準 《評価方法》	筆者の主張を基に自分の知識や経験を見直し、メディアとの関わり方について自分の考えをまとめている。《ワークシート・発言》
見取りの要素と表現例	○見取りの要素 ・メディアとの関わり方について、筆者の考えを基に考えの根拠となる事例を挙げて自分の考えをまとめている。 ① 筆者の主張に触れている。 ② 自分の知識や経験から考えをまとめている。 【例】 ・筆者が言っていたように①情報をそのまま受け取るのではなく、想像力のスイッチを入れることが大切だと感じた。特に、「事実か、印象か」考えてみることである。実際に自分で新聞を読んでみると、②〇〇は書き手が勝手に書いていることで、事実ではない。だからこそ自分でしっかりと事実か印象か判断しなければ正しく情報を受け取ることができないと感じたからである。 ・筆者の①情報をそのまま受け取ると思い込みや推測によって誰かが苦しむこともあるという主張について私は少し疑問に感じた。なぜなら、②新聞を読んでみても、受け手側として誰かを苦しめているような感覚にはならない。それを発信するのはよくないと思うが、どんな情報も自分だけに留めておけば誰かが苦しむことはないと考え。しかし、自分だけではなく、みんながマイナスな面を感じていたら、〇〇の記事のように誰かが不利益を受けることもあるかもしれないので、冷静に判断していこうと思う。
個に応じた支援	・新聞記事の読み直しをすることで、自分自身のメディアとの関わり方の変化・実感を伴った理解をもとに考えをもてるようにする。 ・自分の考えが言語化しやすいように、筆者のどの考えに納得したり疑問をもったりしたのかと実際に新聞を読んで感じたことの2点について書くように促す。